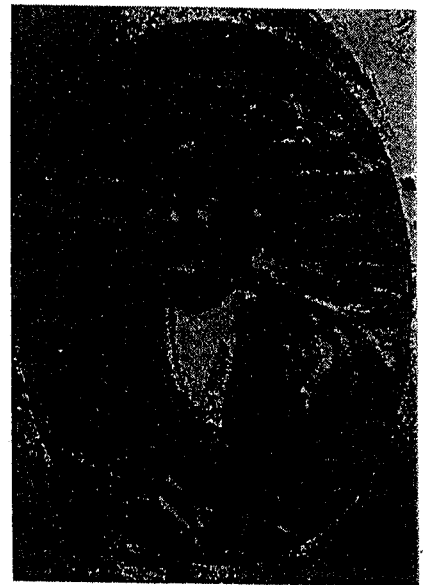


日本人留学生第一号

中浜万次郎は、文政十年（1827）、現在の土佐清水市中浜で漁師の次男として生まれた。天保十二年（1841）、十四歳のとき漁船に乗り、足摺岬沖で操業中に大嵐に遭遇。その後漂流中に奇跡的に救助され、日本人として初めて米国大陸に上陸した。万次郎は「ジョン・マン」という名で、フェアヘブンやニューベッドフォードの人々に可愛がられ、ホイットフィールド船長の厚意で、初等、中等教育を受け、また、英語、数学、航海および造船学、歴史学などを学んだ日本人留学生の第一号でもある。

さらに、三年四ヶ月にわたって世界を一周する捕鯨船の副船長としても活躍した。二十四歳のとき、日本の開国の必要性や母を想い、死を覚悟して鎖国の日本に帰る決心をし、ハワイを経て、嘉永四年（1851）、琉球に上陸した。しかし、鎖国のおきてを破った罪に問われ、琉球、長崎、土佐で繰り返し取り調べを受け、万次郎が中浜の故郷に帰ったのは、嘉永五年（1852）のこと。母と子は十二年ぶりに感激の再会を果たした。

その後、日本を開国に導き、近代の日本を創った立役者となるのである。



万次郎の歴史

西暦	年齢	略記事
1827	0	土佐の國中浜村谷前の漁師、悦介・母汐の次男として生れる。
1840	13	9才の時父死亡、10才で、中浜浦老役、今津嘉平宅の下働きに出る。
1841	14	正月5日足摺岬でのアジ、サバ漁中に漂流（10日間）九死に一生を得て、南海の孤島（鳥島）に漂着、わずかな留水と海草、海鳥を食して143日間も生きながらえる。
1841	15	米国捕鯨船ジョン・ハウランド号に救助され、ホイットフィールド船長の保護を受ける。
1842	16	漂流仲間とはホノルルで別れ、万次郎1人捕鯨船員として、大平洋へ乗り出す。
1842	16	船長の故郷マサチューセッツ州、フェアヘブんに帰港。オックスフォード校（初級）パートレット専門学校（上級）で、英語、数学、測量、航海、造船等の教育を受ける。
1846	19	米国一流の捕鯨船フランクリン号の航海士として乗船し、大西洋から喜望峯をまわり、インド洋、更に大西洋での捕鯨航海へと、文字通り「7つの海」をかけ巡る。ホノルルにも立寄り、仲間と再会する。1848年7月一等航海士副船長となる。
1850	23	アドベンチャー号を購入し、伝蔵（筆之丞）、右衛門の3人で母国へ帰る便船、サラボイド号の人となる。
1851	24	沖縄本島（琉球国摩文仁間切小波浜）に上陸。
1852	25	那覇・翁長-島藩澤鹿兒島-長崎奉公所（白州での尋問18回に及ぶ）土佐藩主山内豊信公の命により、吉田東洋から70日の取り調べを受ける。実に11年10ヶ月ぶりに母汐との再会がかなう。（わずか5日間）
1852	26	土佐藩の士分に取り立てられ、高知城下の藩校「教授館」の教授となる。この時、後藤象二郎、岩崎弥太郎等が直接指導を受けている。
1853	26	老中首席阿部伊勢守からの召喚状が土佐藩の万次郎に届き、江川太郎左衛門の手附（秘書位）を拝命に、ご普請役格としての「幕府直参」となる。この時、生れ故郷の地名を苗字として「中浜万次郎」を名のる。
1855	28	安政2年（1855）わが国最初の航海学書・年表（アメリカ合衆国航海学書）を筆書し、つづいて安政6年に英会話書（英米対話捷徑）を編集する。
1857	30	●西洋型帆船を伊豆で建造（直接指導）に当る。 ●安政4年4月、軍艦教授所教授を拝任 ●安政4年10月、捕鯨術教授のため箱館へ出発（箱館奉行所与力次席）
1860	33	批准使節団の一員として、「咸臨丸」に乗り組む。艦長勝海舟、教授方通弁主務中浜万次郎他総勢96名、後の慶応義塾大学長福沢諭吉（当時26才）も同行し、共にウェブスターの英語辞書を購入したエピソードは有名である。
1861	34	●外国奉行水野筑後守忠徳に同行し、小笠原諸島（父島、母島）の調査と図面づくりをする。
1864	37	●文久2年7月（1862）妻鉄病死（病死）
1866	39	●薩摩藩の開成所教授となり、航海、造船、測量、英語を教授する。土佐藩主山内容堂公の依頼により、後藤象二郎等と藩校「開成館」の設立に寄与する。また二人は上海に渡り、土佐藩船を購入する。
1869	42	●明治政府の命を受け、開成学校（現東京大学）の徴士（二等教授）となり明治3年には、中博士（教授）となって、最高学府の教壇に立つ。
1870	43	●普仏戦争視察の一員として、ヨーロッパ出張。
1871	44	●ロンドンから帰って間もなく、軽い脳溢血を起して倒れ、程なく全快するが、以後政治の全面には出ず、波乱万丈の半生に比べて誠に静かな晩年を送る。その間、中浜にも数度帰省し、老母（明治12年に86才で病死）を見舞った。
1898	71	●東京京橋町町長中浜東一郎医博（岡山医学校教授）宅で71才の生涯を終える。

姉妹都市提携

☆ アメリカ合衆国マサチューセッツ州 ニューベッドフォード&フェアヘーブン

昭和62年12月2日姉妹都市提携

米国の捕鯨船ジョンハウランド号・ホイットフィールド船長に救助された万次郎は2年3ヶ月を経て米国ニューベッドフォード港に上陸。この地でアメリカ大陸最初の日本人としての生活を始め、フェアヘーブンのオックスフォード校（初級）やパーレット専門学校（上級）で、英語、数学、測量学、造船学を学ぶなど、日本人留学生のパイオニアとして活躍した。

姉妹都市友好協会では、多くの方々のご協力のもと、清水高校生短期留学事業や米国ジョン万祭りへの参加など交流を深めている。

☆ 沖縄県豊見城市

平成5年2月3日姉妹都市提携

鎖国中の日本では、外国からの帰国は大罪であり、万次郎は死罪を覚悟の帰郷となった。幕府の厳しい取調べの中、豊見城では、高安家をはじめ温かいもてなしを受け無事帰郷する。

姉妹都市友好協会では、子どもたちのスポーツ交流事業を中心に有効を深めています。また、平成5年からは、豊見城市の子どもたちがあしずり祭でエイサーを元気に披露してくれています。

平成15年事業計画

四 月	姉妹都市スポーツ交流 (派遣)	平成3月28日~31日	十 月	第9回ジョン万祭参加 ツアー	10月3日~9日
五 月	役員会	5月 7日	十一 月	姉妹都市派遣感想文集 発行	11月中旬
六 月	定期総会	5月30日	十二 月	産業祭姉妹都市特産品 出店事業	第1土日
七 月	ジョン万次郎漂流体験 学習	7月28日~31日	一 月		
八 月	清水高校生姉妹都市 派遣事業	7月下旬~8月中旬	二 月		
九 月	姉妹都市スポーツ交流 (受入)	8月8日~11日	三 月	役員会	3月中旬